

2013年5月15日  
全国保険医団体連合会  
女性部部长 板井八重子

## 橋下氏の「慰安婦は必要」発言に抗議する

5月13日、日本維新の会の橋下徹共同代表（大阪市長）は旧日本軍「慰安婦」問題について、「慰安婦制度というものが必要なのは誰だって分かる」として、慰安婦制度を正当化し、女性の人権を踏みにじる発言をしました。また、沖縄の米軍司令官に会った際、「もっと風俗業を活用してほしい」と進言したことも明らかになっています。ツイッターでも「男に性的な欲求を解消する策が必要なことは厳然たる事実」と女性をおとしめる、女性を人間扱いしない持論を展開しています。

これまでも、橋下氏は、日本軍「慰安婦」問題について、「強制連行のような事実はなかった」との発言を続けてきました。しかし、日本がアジア・太平洋戦争中、植民地とした朝鮮半島や軍事占領した中国や東南アジアから女性を連行し、日本兵が強姦や売春を強制したのは、「慰安婦」とされた女性たちの数多くの証言や証拠から明らかです。また、強制連行があったかどうかということが問題なのではなく、戦場において女性が性奴隷とされていたことが問題です。橋下氏の発言について、韓国、中国、アメリカの主要なメディアからも、怒りや驚きの報道をしています。戦争責任を反省せず人権感覚を欠くのでは、国際的に孤立するだけです。

「慰安婦は必要だった」という発言は、驚きを通り越し、理解に苦しむものです。「慰安婦」だったことを証言した女性達は高齢化し、早急な「慰安婦」問題の解決が求められています。「慰安婦」被害者たちは、自身の尊厳の為に戦っています。また、米軍司令官に風俗業者の活用を求めた橋下氏の発言は、米軍犯罪・性暴力に対する擁護にまでつながるような発言です。女性の権利、尊厳を守るためにも、橋下氏の暴言を断じて許すわけにはいきません。

全国保険医団体連合会は、過去の侵略戦争の過ちを教訓として学ぶとともに、平和を脅かすあらゆる動きに対し、医師の社会的責任を果たす決意をしています（「開業医宣言」）。また私たちは、健康と命を守る医療人として、命を生み出す女性として、未来永劫、従軍慰安婦のような悲劇を二度と起こさないためにも、橋下氏の発言に抗議します。